

# 校内初任者研修③

## 指導案・指導略案の書き方

どこがどうつながってる？  
悩みやすいポイント解説



# 今日の予定

- 1、今日のねらい
- 2、指導案の書き方
- 3、指導略案の書き方

# 今日のねらい

- 校内の支援コーディネーター

毎年、教育実習の指導教員や実習生の指導案指導  
初任者、10年目研修の指導案指導

→指導案を書く時に

知っておいて欲しいポイントや書き方

授業づくりのポイント

具体例を基に説明

今日のねらい：指導案、指導略案の書き方  
授業作りの考え方について知る

# 指導案と指導略案

○指導案は単元全体の計画を含む

- ・単元全体のねらいと評価
- ・単元の中でそれぞれの授業の関係性

○指導略案は1つの授業についての台本

- ・1つの授業のねらいと評価
- ・児童生徒の活動、教員の動き（支援）

副担当教員（ST）に課題の意図や役割、お願いしたい支援を伝えることが目的

# 今日の予定

2、指導案の書き方

3、指導略案の書き方

## 2、指導案の書き方

### 【ポイント】

- 各項目で書くべき内容を理解し、書き分ける
  - \* 常に主語が教員か児童生徒か確認する
- 各項目がどのように関連し合っているかを確認する
  - \* どこと対応しているか、説明できる
- 自治体独自の表記の決まりに沿っているか、確認する
  - \* 「障がい」や「～させる（使役）」を使わないなど

# 授業の基本的な情報

## • 指導者名

名前の前にT1・T2や  
MT・STをつける

## • 単元名

この授業のタイトル。何をするのかや何ができるようになるのかを明確にする

## • 単元目標

この授業で身につけて欲しい力について箇条書きで書く。  
主語は「児童・生徒」

## 「数学・理科」（Ⅱグループ数理）学習指導案

府立西浦支援学校

指導者 T1 樋井 一宏（主担）

指導教諭 T2 ○○ ○○

1. 日時 令和X年6月30日（金） 第2時限（9:50～10:40）
2. 場所 中学部 第3学年3組 教室
3. 学部・学年・組 中学部 第3学年 Ⅱ-②グループ 7人
4. 単元名 「いろいろな形に触れよう、見分けよう（数学）」・「体の部位がわかるかな（理科）」
5. 単元目標
  - ・簡単な図形の弁別ができる。（数学）
  - ・図形の回転や重なりに気づくことができる。（数学）
  - ・見本の図形を再現することができる。（数学）
  - ・体の部位の名称について正確に理解する。（理科）
  - ・落ち着いて課題に取り組み、終了報告を行うことができる。（全般）

# 単元設定の理由

- 単元設定の理由（なぜ、この授業を行うのか）を  
「教材観・単元観」（なぜ、この教材なのか：教員）  
「児童・生徒観」（なぜ、この子どもたちに必要なのか：児童生徒）  
「指導観」（どんな工夫が必要なのか：教員）  
から説明する。

☆この3つがしっかりと関連していることが重要  
ここが、一番難しい



# 教材・単元観

- これまでの学習経験や、これからの学習予定、将来の生活の中での活用などを記述。
- どのような力の獲得をめざすかを記述
- どのような活動を行うか記述
- 主語は教員

## 7. 教材観

### 【数学】

図形の名称とその弁別の理解を定着させることは、数学的概念の深まりにとどまらず、日常生活での理解の助けにつながるものであると考える。これまで、簡単な図形の学習を行なってきたおり、一定の理解が見られる。そこで、発展的な課題として図形同士の位置関係や回転の学習を行うこととした。この学習を通して空間認知の力を高め、重なり合う図形の学習では見えないものを「想像する」力を育てることになると考えこの課題を設定した。加えて課題の中にブロックを取り入れることで前述の各認知能力の具体的な操作場面を作り出すことができ、さらには手指の巧緻性の課題としても有効であろうと考え取り入れた。ブロックの課題については別紙の「レゴブロックまとりくす」(大阪教育大学 中矢史雄先生より)に基づいて単元構成を行っている。このブロックの課題はいわゆるプログラミング的思考の課題につながるものである。論理的に課題解決に向けた試行錯誤の経験が重要であると考えている。

### 【理科】

体の部位の名称については、今後の生活の中で不調の部位を伝えたり、指示された部位を正しく理解できたりすることでスムーズに生活を送れる場面が多くあると推察される。また、左右の概念についても生活の中の指示などで理解していることが望ましいものであると考える。そして、ボディイメージを養うことは運動や生活に生きるだけでなく、自己理解にもつながるものである。そこで、本単元では体の部位の名称と合わせてその部位に触れることでボディイメージを高める課題を設定した。左右の概念についても別の動作(グーパー・チョキ)と組み合わせることで理解を定着できるよう課題設定を行った。

本単元を通じて自分の体に興味を持ち、理解を深めその経験知を日常生活へと援用して欲しいと考え課題設定を行った。

# 児童・生徒観

- 学習集団の授業における特徴を記述

意欲や態度、興味関心など

- これまでの教科の学習について記述

- 指導上、配慮が必要な点などについて記述

- 主語は「児童・生徒」

## 6. 児童生徒観

ほとんどの生徒が学習に対して意欲的で、皆の前で発表する課題や、個別のプリント課題に対して「もっとやりたい」という気持ちを持っている。意欲の高さから自分の順番を待ちきれなかったり、他の生徒の活動時に集中が途切れ、姿勢が崩れたりすることもある生徒たちである。また、場面緘黙の生徒や、極端な自信の無さから学習環境によっては精神的に不安定になってしまう生徒もいる学習集団である。

そして、手指の巧緻性や目と手の協応運動の苦手さから作業的な課題が不得手な生徒も在籍している学習集団である。

### 【数学】

簡単な図形の弁別およびそれらの回転や組み合わせを取り上げる。ほとんどの生徒がこれまでの学習で基本的な図形（円、四角形、三角形など）の違いについては理解できている。一方で、空間認知や眼球運動の困難さから図形の向きや重なりの違いを見落とししたり、見誤ったりすることのある生徒たちである。

### 【理科】

体の部位の名称について取り上げる。大まかな体の部位については、学習経験の差はあるが概ね理解できている生徒たちである。しかし、ボディイメージの弱さから体背面のイメージがつかみにくかったり、末端の部位までの距離間がつかみにくかったり、左右の概念の理解の曖昧さが見られたりする生徒たちでもある。

# 指導観

- 単元目標を達成するために教材や指導形態、授業の進め方、発問、環境設定などの工夫を記述
- 児童生徒の得意を活かす
- 具体的な支援も記述
- 児童生徒観と対応させる
- 主語は「教員」

## 8. 指導観

本グループの生徒たちは見通しが持てることで課題への意欲が高まることから授業の流れは固定し継続して取り組めるようにしている。また集中力の持続時間を考慮し、1時間内に複数の課題を用意し、短時間で内容が切り替わるように工夫している。各課題については「見る課題」「聞く課題」「書く課題」「集団活動」「個別課題」「手先を動かす課題」と多くの種類を1時間内に配置している。これもまた生徒の意欲を継続させるためのものである。

ほとんどの課題においてできた時には生徒の実態に応じた方法（声、ハンドサイン）で終了を報告するようにしている。将来の生活を見据え、できたことを伝えられる力をつけるために1年時から取り組んでいるものである。プリントの整理やブロックの片づけを自身で行うのも同様の理由である。

### 【数学】

形の模倣は個人の課題によって「回転」や「重なり」「位置関係」を学習できるようにする。また、友だちの活動を「見る」ことで各課題が学び合いの中で学習できるように、必要に応じて言葉かけを行うようにしている。

各自の到達度合いに応じてプリント課題を用意することで学習内容の定着をはかるようにしている。

そして、集団で行った図形の学習を「プリント課題」や「ブロック」という個別課題によって定着できるように授業を構成している。

### 【理科】

課題の最初に「左右」について確認することで曖昧になりがちな左右の概念を確認するようにしている。教員が指示する部位についても中心⇒末端、大きな部位⇒細かな部位となるように配慮している。課題の最後に個別のプリント課題を用意することで学習意欲を高め、知識の定着を意図している。

←

# まとめると

- まず、「何をやりたいか」「どんな姿を見たいか」→単元決定
- 【教材観】これまで、図形の学習を行ってきた。発展的な学習として設定。図形の知識（数学）、空間認知や手指の巧緻性（自立活動）を高める→将来の日常生活や職業生活に結びつく
- 【児童生徒観】学習意欲は高いが、集中が途切れやすい。手指の巧緻性に課題。図形の基本的な知識は身についている。
- 【指導観】授業の流れを固定し、見通しを持てるようにする。活動の種類を増やし、集中を維持する。実態に応じた終了報告の手段を用意する。

# 指導計画・評価

- 単元の流れを表にまとめる。
- 大きな区切りがあるときは「○次」で区切る。
- 目標には各授業の目標を
- 学習内容にはその授業の内容を簡単に
- 評価にはその授業の評価と  
その方法

\* 目標と対応させること  
全ての時間、全ての観点で  
評価する必要はない

次	時	目標	学習内容	評価基準
第一 次	1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な形の名前がわかる</li> <li>ブロックをできるだけ高く積みあげることができる</li> <li>体の部位について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形のなまえ（基本図形）</li> <li>レゴ（高く積み上げよう）</li> <li>体の部位（全身）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形カードの名前を答えることができる（知・技）</li> <li>指定された時間、集中してブロックを積みあげることができる（態）</li> <li>指定された体の部位にタッチすることができる（知・技）</li> </ul>
	2・3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の違いがわかる</li> <li>見本通りブロックを積みあげることができる</li> <li>顔のパーツの名称について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の弁別</li> <li>レゴ（おなじ色で積み上げよう）</li> <li>体の部位（顔）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形カードを種類ごとに分けることができる（思・判・表）</li> <li>同じ色のブロックだけを積みあげることができる（知・技）</li> <li>指定された顔の部位にタッチすることができる（知・技）</li> </ul>
	4・5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>回転しても同じ図形がわかる</li> <li>見本通りブロックを積みあげることができる</li> <li>体の部位（細部）について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の弁別（回転）</li> <li>レゴ（しましまに積み上げよう）</li> <li>体の部位（全身細部）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表）</li> <li>2色のブロックを交互に積みあげることができる（思・判・表）</li> <li>指定された体の部位にタッチすることができる（知・技）</li> </ul>
第二 次	1・2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大縮小しても同じ図形がわかる</li> <li>ブロックをできるだけ並べることができる</li> <li>顔のパーツ（細部）の名称について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の弁別（拡大縮小）</li> <li>レゴ（平たく並べよう）</li> <li>体の部位（顔細部）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表）</li> <li>指定された時間、集中してブロックを並べることができる（態）</li> <li>指定された顔の部位にタッチすることができる（知・技）</li> </ul>
	3・4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>重なっている2つの図形がわかる</li> <li>見本通りブロックを並べることができる</li> <li>体の部位の名称を答えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の弁別（重なり）</li> <li>レゴ（形を真似しよう）</li> <li>体の部位（全身）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表）</li> <li>見本と同じようにブロックを並べることができる（思・判・表）</li> <li>プリントに体の部位の名称を書くまたはなぞることができる。（知・技）</li> </ul>
	5・6時（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大縮小や回転して重なっている2つの図形がわかる</li> <li>決められた範囲にぴったりブロックを並べることができる</li> <li>顔の部位の名称を答えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の弁別（複合）</li> <li>レゴ（一面に並べよう）</li> <li>体の部位（顔）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表）</li> <li>計画的にブロックを並べ、決められた範囲に過不足なく収めることができる（思・判・表）</li> <li>プリントに体の部位の名称を書くまたはなぞることができる。（知・技）</li> </ul>



# 評価について

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度
- 各基準に対して到達レベルを数段階用意しておく

\* なぞり書き、視写、書き取りなど

知識・技能↩	思考・判断・表現↩	学びに向かう力↩
<ul style="list-style-type: none"><li>• 基本的な図形の名称がわかる。↩</li><li>• 見本と同じ形を選びカードを貼ることができる。↩</li><li>↩</li><li>• 回転、拡大・縮小した形であっても同じ形と識別することができる。↩</li><li>↩</li><li>• 条件に応じた形でブロックを積むことができる。↩</li><li>↩</li><li>• 体の部位の位置と名称を正しく理解できる。↩</li><li>↩</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 形を見比べ異同を判断できる。↩</li><li>↩</li><li>↩</li><li>↩</li><li>↩</li><li>↩</li><li>• 条件に合ったブロックを積むための方略を立てることができる。↩</li><li>↩</li><li>• 指示を理解し、体の部位に正確に触れることができる。↩</li><li>↩</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 課題に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。↩</li><li>↩</li><li>• 皆の前でも課題に取り組むことができる。↩</li><li>↩</li><li>• 順番を守って活動することができる。↩</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• 指示された体の部位に触れることができる。↩</li><li>↩</li><li>• 顔や体の部位の名称を書き取り又はなぞり書きすることができる。↩</li></ul>		

# 児童生徒の実態と 本時の目標

- 児童生徒の一人ひとりの実態  
本時に関係のあるものを記述  
意欲や態度、興味関心  
教科の知識や技能
- その児童生徒に本時で到達し  
て欲しい目標（姿）  
本時の目標と対応しているか  
具体的に観察可能な行動で

D	形の名義については概ね理解できている。回転や重なりについての理解が不十分である。書字については漢字交じりで書くことができる。学習意欲が高い。一方でやりたい気持ちが先行してしまったり、友だちの活動時に答えを教えてしまったりすることがあるので順番が意識できるよう言葉かけが必要。	●体の部位について適宜漢字を交えて正確に書くことができる。 ●例と同じ形を選ぶことができる。 ●条件に合うように方略を立ててブロックを積むことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。 ●プリント課題に正確に記入できたか。 ●プレート一面を過不足なくブロックで埋めることができたか。
E	形の名義については曖昧。体の部位についても左右の間違いがある。書字はひらがなで書くが自身の発音が不明瞭なこともあり書き間違いがある。発音と共に確認が必要。学習意欲が高い。自分の活動時以外集中が乱れ姿勢が崩れることがあるので、見通しが持てるよう言葉かけが必要。手先の不器用さがあるので慌てず課題に取り組むよう言葉かけが必要。	●体の部位の名義をひらがなで書くことができる。 ●例と同じ形を選ぶことができる。 ●条件に合うようにブロックを積もうとすることができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。 ●プリント課題に正確に記入できたか。 ●プレート一面に過不足なくブロックを積もうとしたか。
F	形の名義については概ね理解できている。体の部位については使用頻度の高い部位についてはよく理解できているが使用頻度がさがると曖昧になる。書字はひらがなで書くが自身の発音が不明瞭なこともあり書き間違いがある。発音と共に確認が必要。特に濁音には注意が必要。学習意欲が高い。自分の活動時以外集	●体の部位の名義をなぞり書きすることができる。 ●例と同じ形を選ぶことができる。 ●条件に合うようにブロックを積もうとすることができる。	●プリント課題で正確になぞることができたか。 ●プリント課題に正確に記入できたか。 ●プレート一面に過不足なくブロックを積もうとしたか。

# 本時の展開

## • 本時の目標

単元の目標と  
齟齬がないか

それぞれの目標の  
評価方法と規準を  
決めているか

＊どのような行動が  
見られればOK？  
観察可能な行動？

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・授業の始まりと終わりを意識して授業に取り組むことができる。
- ・順番を守って皆の前で活動することができる。
- ・体の部位（顔）について理解することができる。
- ・形の違いを見分けることができる。
- ・ブロックを一面に並べることに取り組むことができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・実態に応じた方法で挨拶をし、授業の始まりと終わりを意識できる。
- ・順番を守り、皆の前で活動し、実態に応じた方法で終了報告することができる。
- ・体の部位を正しく理解し、触れたり名称を書き取ったり（なぞったり）できる。
- ・形の違いを理解し、同じ形を選ぶことができる。
- ・ブロックを一面に並べるために方略を立て、挑戦することができる。

### (3) 本時で扱う教材・教具

予定カード、ミニホワイトボード、体プリント（顔）、形プリント、ファイル、パンチ、  
レゴブロックセット、○×ブザー



# 本時の展開

## • 学習活動

## 何をするか、時間配分

## • 教師の指導・支援

## 教員の動き

## • 評価規準・評価方法

## 児童生徒のどこを見るか、何を見るか

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ (1分)  今日の予定(2分)   出席(7分)	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ●皆の前に出て活動することができる  ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位(5分)  体プリント(6分)   形プリント(10分)   レゴ(15分)	注目を促してから指示を行う。    課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。  ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる  ●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶことができる ●プリントをファイルに綴じることができる  ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ(3分)   おわりのあいさつ (1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 教室配置・板書計画

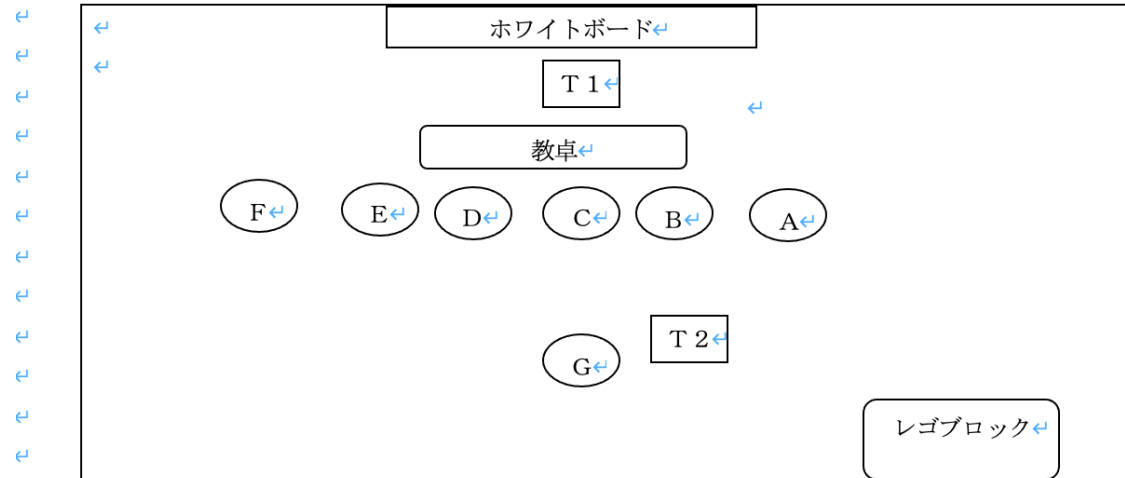
- 教室配置

児童生徒の並び、STの立ち位置

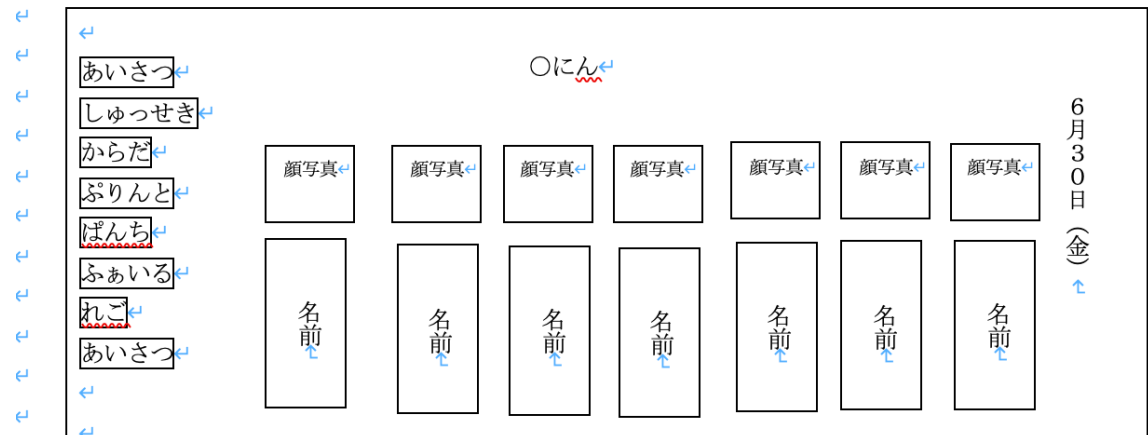
- 板書計画

1時間の終わりの板書の完成図

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）



◇板書計画（必要があれば）



# 今日の予定

## 3、指導略案の書き方

# 3、指導略案の書き方

## 指導略案の役割

- STにその時間の活動や評価の観点を伝える
- STにその時間中の動きを伝える  
(支援の手立てやどのタイミングでどの生徒を見るか)
- ＊自分の授業の流れをイメージする (時間配分など)

## 授業の台本

# 基本事項

- 教科、日時、場所、児童生徒数、指導者名（MT・ST）について書く
- 題材はその授業で扱う内容をわかりやすく記入（単元名と関連させる）
- ねらいはその授業の主たる目標を記入

中学部 指導略案

1.教科(グループ) 数学・理科 IIグループ

2.日時 令和X年Y月Z日(木) 2時限目 9:50~10:40

3.場所 中学部3-4HR

4.生徒(人数) 7人

5.指導者 樋井 ST1  
主担者に○

6.題材 体の部位について知ろう レゴブロックをびったり敷き詰めよう

7.ねらい 体の部位の名称を知り、書くことができる ブロックを並べることに取り組むことができる

8.展開

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ (1分) 今日の予定 (2分) 出席 (7分) 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。 予定カードを指さしながら説明する。 写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。 ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる ●皆の前に出て活動することができる ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位 (5分) 指示された体の部位にタッチ 体プリント (6分) 体の名称の書き取りプリント 形プリント (10分)	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に○つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。	●指示されたからだの部位に触れることができる ●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる ●見本と同じ図形を選ぶことができる

# 時間

- 時間：導入・展開・まとめに分ける。
- 展開は展開数によって  
展開①、展開②のように  
区切れることも

8.展開			
時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ（1分）  今日の予定（2分） 予定カードを見て本時の学習について知る  出席（7分） 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ●皆の前に出て活動することができる ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位（5分） 指示された体の部位にタッチ  体プリント（6分） 体の名称の書き取りプリント  形プリント（10分） 見本と同じものを選ぶプリントに取り組む  レゴ（15分） ブロックを条件に合うよう並べる	注目を促してから指示を行う。  課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。  ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる  ●写真に示された部位を書く（なぞる）ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶことができる ●プリントをファイルに綴じることができる  ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） 本時の活動を振り返る  おわりのあいさつ（1分）	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 学習内容

- 学習内容：活動の内容を題名（児童生徒に示すもの）と内容を書く。
- 主語は児童生徒
- 時間配分も記入

8,展開			
時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ（1分）  今日の予定（2分） 予定カードを見て本時の学習について知る  出席（7分） 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ●皆の前に出て活動することができる  ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位（5分） 指示された体の部位にタッチ  体プリント（6分） 体の名称の書き取りプリント  形プリント（10分） 見本と同じものを選ぶプリントに取り組む  レゴ（15分） ブロックを条件に合うよう並べる	注目を促してから指示を行う。  課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。  個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。  ルールについては前で実演することで具体的に示す。  準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる  ●写真に示された部位を書く（なぞる）ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶことができる  ●プリントをファイルに綴じることができる  ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） 本時の活動を振り返る  おわりのあいさつ（1分）	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。  できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 教師の指導支援

- 教師の指導支援：各学習活動の際に、MT・STがどのような支援を行うかを記入
- どこまでどのように支援して欲しいかを具体的に記入する
- 主語は教員

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導 入	はじめのあいさつ (1分)  今日の予定(2分) 予定カードを見て本時の学習について知る  出席(7分) 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ●皆の前に出て活動することができる  ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展 開	からだの部位(5分) 指示された体の部位にタッチ  体プリント(6分) 体の名称の書き取りプリント  形プリント(10分) 見本と同じものを選ぶプリントに取り組む  レゴ(15分) ブロックを条件に合うよう並べる	注目を促してから指示を行う。  課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。  個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。  ルールについては前で実演することで具体的に示す。  準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる  ●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶことができる  ●プリントをファイルに綴じることができる  ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 ま と め	本時のまとめ(3分) 本時の活動を振り返る  おわりのあいさつ (1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。  できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ●それぞれに応じた方法であいさつができる。



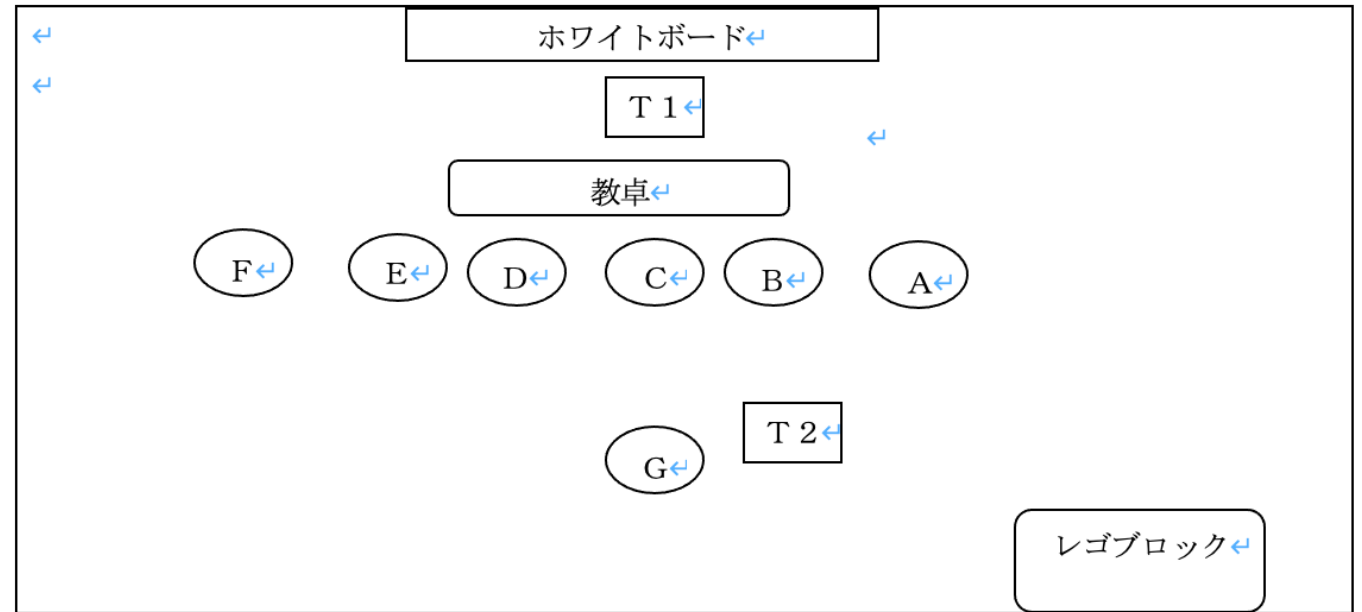
# 評価規準

- 評価規準：それぞれの学習活動に対する評価（〇〇できる）と評価方法（行動や成果物）とを具体的に記入
- STはこの評価規準をもとに支援を考える。
- ただし、児童生徒が「できた」という気持ちで活動を終わられることが大切。  
□ □ という支援があれば△△できた。

8.展開			
時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ（1分）  今日の予定（2分） 予定カードを見て本時の学習について知る  出席（7分） 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	● それぞれに応じた方法であいさつができる。  ● ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ● 皆の前に出て活動することができる  ● 順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位（5分） 指示された体の部位にタッチ  体プリント（6分） 体の名称の書き取りプリント  形プリント（10分） 見本と同じものを選ぶプリントに組み込む  レゴ（15分） ブロックを条件に合うよう並べる	注目を促してから指示を行う。    課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。  個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。    ルールについては前で実演すること で具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	● 指示されたからだの部位に触れることができる  ● 写真に示された部位を書く（なぞる）ことができる  ● 見本と同じ図形を選ぶことができる  ● プリントをファイルに綴じることができる  ● ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） 本時の活動を振り返る  おわりのあいさつ（1分）	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。  できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	● T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ● それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 配置図

- 配置図：児童生徒の座席配置や教材の置き場所、MT・STの位置を明確に示す。
- 活動によって場所や机の配置を変える場合は、それも示す。



ありがとうございました



指導案って書くの大変！！  
でも、書いてみて気づくことも  
たくさんありますね。